

同じく 14 日の東京湾 1 (浦安沿岸) の水質鉛直プロファイルを図 3 に示す。ここでは水色 deep green, 透明度は 2.6 m で目視によれば青潮は認められなかったが, 水深 4 m 付近から溶存酸素は減少し, 酸化還元電位も 5 m 付近から急激に低下し, 6 m 付近から負の値になった。酸化還元電位が負の値に転じる付近の濁度の値は一時的に上昇している。この時点では浦安沖では還元的な水が表層までは湧昇しておらず, 5~6 m 付近の海中で青潮と同様の現象が起きていると推測される。

3・2 局所規模の青潮

上記の青潮の他に, 6月5日, 7月31日, 8月16日にいずれも千葉中央港内で海水の変色, 魚類の鼻上げなどが観測された。8月16日にはわずかに検見川沖にも変色域を認めたが, 継続時間も短く, 局所的であった。

6月5日の現象に先立ち, 5月30日頃より6月2日を極大として *Prorocentrum minimum* を優占種とするやや規模の大きい赤潮が発生していた²⁾。赤潮プランクトンの遺骸が海底に堆積し, 分解されること

により底層の貧酸素化が進んでいたものと思われる。

4 まとめ

2006年の青潮発生回数は1回であった。漁業被害の報告はない。

謝 辞

本調査は千葉県環境研究センターと千葉県環境生活部水質保全課との共同調査であり, ご協力いただいた関係各位, ならびに本報告をまとめるにあたりデータのとりまとめに助力いただいた日本大学生産工学部・出水澤雄太氏に深く感謝します。

文献

- 1) 飯村晃・小林広茂・小倉久子:東京湾の青潮発生状況(2005年), 千葉県環境研究センター年報第5号(平成17年度)
- 2) 飯村晃・小林広茂・小倉久子:赤潮等プランクトン調査, 千葉県環境研究センター年報第6号(平成18年度:本誌)

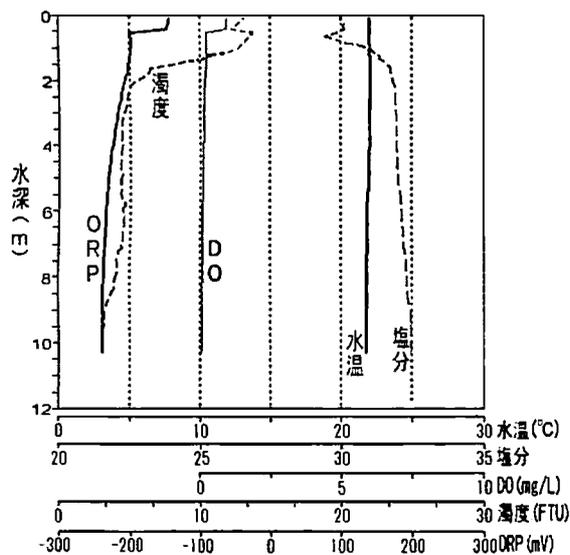


図2 9月14日船橋港の水質鉛直プロファイル

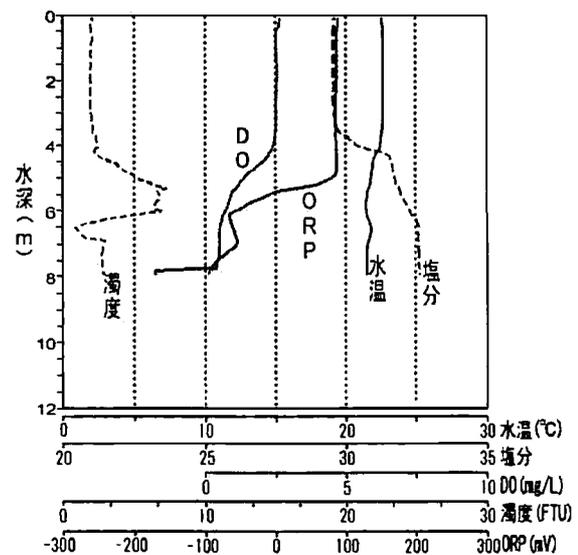


図3 9月14日東京湾1の水質鉛直プロファイル